

令和7年度まち・ひと・しごと創生有識者会議における意見及び提案

分類	意見・提案
企業誘致の促進	・創業支援、町民の健康維持等の観点から、せめてドラッグストアの誘致を進めていただきたい。併せて、特にNスクエアと連携したきびプラザの活性化策を進めていただきたい。 ・就労による転出抑制として、将来職場となりうる企業を新しく誘致することも重要ですが、今ある事業所と子供たちとのつながりも重要だと思います。昔は社会見学は勉強としての意味合いが強かったが、人手不足の今では社会貢献と将来就職の選択肢に入れてもらう活動(自社を売り込む広報・採用活動)として企業も積極的に取り組んでいます。子供たちが将来町に残って(戻って)もらう取り組みとして、子供たちと町内事業者が継続的に接点を持てるよう取り組んでいただければ良いと思います。 ・コワーキングスペースやサテライトオフィスを設置しただけでは起業等には結び付かないため、産業支援機関と連携しつつ、伴走支援も含めた体制整備を期待します。
起業家の育成	・任期満了後の地域おこし協力隊の起業に対する支援を強化してはどうか。
新規就農者育成	・コメ不足で農業経営に注目が集まっています。農業や林業も起業と同じ目線で支援が必要と考えます。「いまある農業の存続」という支援も大事ですが「維持・存続」という言葉には後ろ向きなイメージしかありません。技術革新や考え方が今までとは違う若者たちが新規就農したくなる、儲かる農業に取り組むことのできる基盤作りにも力をいれていければ良いと考えます。
吉備高原都市の整備促進	・吉備高原都市活性化の起爆剤として、防災庁誘致を目指してほしい。 ・国立吉備青少年自然の家&吉備高原医療リハビリテーションセンターとも連携し、医療と教育そして防災・健康といった四位一体の取組をうたって取り組んでいただきたい。
空き家活用の推進	・将来的に人口は間違いなく減少していきます。そのなかで、行政サービスを維持するには今以上に効率的な運用が求められると思います。そうしたときに、できるだけ吉備高原都市エリア内、賀陽庁舎周辺などエリアに集約できるものは集約する必要もあると思います。代々引き継いできた方々にもいろんな思いはあるとは思いますが、現段階で点在している空き家に新たな入居者をあっせんするのではなく、「住む場所」については(かなり長い目線で・・・)計画的に集約していく必要があると思います。
広域観光の充実	・吉備中央町の特徴(良さ)を活かした、アストロコテージでの星空体験&ブルーベリー狩り、乗馬体験等「広域観光ルート連携」を進めていただきたい。 ・県(県民局を含む)が主催する県外でのPRの機会はこれから増えてくると思うので、積極的に参加いただきたい。
地域資源を活用した体験コンテンツの充実による人の流れの創出	・体験コンテンツに関しては、瀬戸内市観光協会が進める「せとうちアドベンチャーツーリズム」等を中心としてアクティビティに関する情報を万博会場でも発信することとしており、今後、管内での資源発掘の機会もあると思うので、積極的に関わってもらいたい。
出会いの場の提供と結婚までのサポート体制の強化	・備前県民局が主催している「備前地域 県市町村職員 実践提案活動」では、今年度、「結婚支援」をテーマにしており、吉備中央町の職員の方にも参加いただいている。この活動は始まったばかりだが、町の基本目標の達成に少しでも貢献できればと考えている。
自然環境の保護・保全	・2024年12月の「吉川地域活性化協議会」の総会で、林野庁が言う、森林本来の価値を活用する「森林サービス産業」という言葉を初めて聞きました。森林にもっと目を向けよう、ということで、その総会の中でも例えば、「昔のようにマツタケが取れる山を作れたら」などというワクワクする話も出てました。町内の70%以上を占める山林を、保全コストとしてでなく、外貨(町外)を稼ぐ資産として見直せば、有効な活用方法がたくさんあるのではないかと思います。
その他(KPI)	・全般的に評価基準が現状にそぐわない点が多々あると思います。現状にあわせ評価基準を見直してはどうかと考えます。(タブレット端末持ち帰りの取組等)
交通DX実装プロジェクト	・色々な交通手段がありますが、各住宅が点在したままでは限界があると思います。どれだけ都会でも、吉備中央町のような車ありきの地域でも、100mが歩けなければ自活はできないのです。岡山など都市部へ出る基本路線維持とコミュニティバス、完全自動運転もしくはライドシェアなどでドアtoドア(ドアtoバス停)が実現できればよく、特区事業としてライドシェアは出来そうに思うのですが。 ・各成果指標を見ただけでは、ベストミックスなのか、機能しているのかわからないのかかわからない。どの項目にしても、数字だけなので、実際に使われている町民の方々のコメントなどがあればなお良い。 ・デジタル田園都市構想の目的である住民の利便性向上や交通確保、持続可能な地域づくりに高い整合性を持つ取り組みです。デジタル技術を活用して、交通弱者の問題に対応する試みが評価されています。導入されたバスロケーションシステムやデマンドタクシーのシステム化により外出支援が進んでいますが、利用率が低く赤字リスクがあるため、効率運行の課題があります。住民のニーズとのずれを解消し、多機能型交通システムを地域インフラとして再定義し、住民参加型でのPDCAサイクル導入が提案されています。利用促進策として、地元商店や医療機関との連携、ポイント制度や観光コース設定などが挙げられ、コスト効率と利便性向上が求められます。 ・公共交通(町営)の利用者数が目標を大きく上回っている結果からすれば、効果があったと思われる。今後は、こうした交通DXの取組を町外に積極的に発信することで、移住者や宿泊者の増加につなげてもらいたい。 ・無人自動運転車両の導入を検討してほしい。町のPRも兼ねて。

鳥獣対策DX実装プロジェクト	・ICTセンサーやドローンなどの技術を用いて被害情報をリアルタイムで共有する体制が評価されますが、運用の隔たりや捕獲数増加の課題が残っています。AI分析による予測マップ作成や多層的な通知手段の整備が求められており、捕獲されたジビエの地産地消によるコスト回収や、監視インフラの兼用化による費用対効果向上を目指すべきです。 ・ドローンの目的外利活用を進めていただきたい。 ・町職員の負担軽減につながったのであれば、効果があったと考えてよい。
誰一人取り残さないエンゲージメントコミュニティの創生	・最大の交付金を投下した事業であるが、成果指標は専門的でわかりにくく、口がはさみにくい。これは、デジ田事業を進めている事業者と町職員・町民全体との間にも言えるのではないかな。 ・成果指標の目標値達成か未達成かだけで評価するなら、委員による議論は不要。(儀式として必要だとしても)それ以外の評価や建設的な議論が必要なら、基本情報として数値以外の実態説明がないと評価できない。委員の評価以前に、町として例えば「〇〇は出来たが、▲▲という課題があるので70点」のような自己評価についてはどのように感じてもらえるのか。もはや「自己」でもないのかも、という危惧を抱きます。実態の説明が不十分なので、出来ているのか出来ていないのか、どういう問題があるのか、順調なのか、といった議論の前提となる情報が与えられない中での議論の意味は薄く、非常に雑であると感じます。 ・利用者の満足度が利用率や利用者数等に影響しているため、利用者の意見を反映した不断の見直しによって、サービス向上につなげていてもらいたい。
サテライトオフィス開設支援事業	・Nスクエアについて、吉備高原都市のシンボリックな建造物として民間に任せるのではなく、将来を見据え景観保持の観点から町として支援措置が必要ではないかな。 ・地方における新たな働き方の創出や地域経済の活性化に寄与する取り組みとして評価されています。特に吉備中央町の地理的利点を活かした都市企業の誘致戦略は、適切とされています。しかし、進出企業の数や業種の多様性はまだ限定的であり、支援制度や通信インフラの充実が必要です。また、地元雇用の促進や地域住民との関係構築も重要な課題です。今後は都市部企業にとっての魅力を高めると同時に、地域住民との関係性や雇用創出を進め、競争力を強化することが求められます。 ・サテライトオフィスを利用したことのある企業を対象にアンケート調査を実施し、今後の活用方法等についての検討材料にしてもらいたい。
書かない窓口	・他の自治体も含め、導入が広がっている過渡期であることから、町民の利便性向上に資する取組であることを、広報等を通じて、しっかりとアピールしてもらいたい。